

群馬県の地域脳卒中センターに救急搬送された脳卒中症例の事後検証：第3報

Trial for quality management of prehospital stroke care activity in Gunma prefecture: Third report

公益財団法人 脳血管研究所 美原記念病院

脳神経外科 谷崎 義生

神経内科 美原 盤

前橋赤十字病院

脳神経外科 朝倉 健

公立藤岡総合病院

脳神経外科 甲賀 英明

高崎総合医療センター

脳神経外科 栗原 秀行

館林厚生病院

脳神経外科 松本 正弘

【はじめに】我々は本学会で、群馬県の t-PA 常時可能病院に救急搬送された脳卒中症例の搬送確認書の事後検証を行い、脳卒中傷病者実施基準の妥当性や救急隊活動の質評価などを検証し報告してきた。2014 年の t-PA 施行 234 症例の 97%が t-PA 常時可能 13 病院で実施されていた。今回は、前述の 13 病院を対象に昨年 11 月分の事後検証を行った。本年 11 月も事後検証を実施するので、その結果と問題点を報告する。【対象と方法】平成 26 年 11 月に 13 病院に救急搬送され、脳卒中と診断された 246 例を対象にした。搬送確認書にある 1. 脳卒中判断（顔面麻痺、上肢麻痺、言語障害、激しい頭痛、異常肢位、その他）、2. 発症時間の記載率と 3. ロード&ゴー判断（JCS 30 以上あるいは脳ヘルニア徴候）の正解率を調査した。【結果】脳卒中判断記載率：59.8%（147/246）、発症時間記載率：57.7%（142/246）、ロード&ゴー判断正解率：52.2%（24/46）であった。2013 年（7 病院）での記載率は、それぞれ 59.2%、61.2%であった。【結論】1. t-PA 常時可能 13 病院で事後検証を実施できた。2. 定点チェックとしての事後検証が定着した。3. 事後検証を行うことにより、専門医の病院前脳卒中救護への理解が深まり、PSLS（Prehospital Stroke Life Support）コース開催や事後検証結果のフィードバックなど救急隊活動の質向上が図られつつある。4. 行政

と協同した事後検証体制構築が必須であり、取り組みを開始している。